第２日目 初任者研修・新カリキュラムによる研修の企画・運営

社会福祉法人鶴ヶ島市社会福祉協議会
藤川雄一（カリキュラム開発研究協力者）

[2-1] 初任者研修のカリキュラム、企画・運営上のポイントについて

○ 初任者研修カリキュラム改訂の視点 －はじめに－

① 従来のカリキュラムを活かし、その課題点を改善し、現在の状況にマッチングさせる。
→ 完全に従来と「別もの」になるわけではない。
これまでの自都道府県の取り組みを**振り返り**、変更の必要がある点を確認する。
〈本研修も内容や方法の伝達ではなく、企画立案に際した検討のポイント提示が目的〉

② 初任者に「普段の（現場の）方法」の入門篇を（＝「研修用の特別の方法」ではなく）。
・ＯＪＴとの連動にあたってポイントとなる。
・例： 実践研究の方法

○ カリキュラム改訂のポイント

① 初任者研修の位置づけ（対象者像）、獲得目標
・各都道府県における人材育成ビジョン（人材育成の全体像）
・初任者研修では取り扱わない内容はどうなるのか
・初任者研修を終えて受講生はどうしたらよいのか

② 教育方法：学習環境デザイン
・受講生が主体的に参加し、学ぶことのできる環境
・受講の姿勢：グランドルールの設定
・「受講生全員が主体的に参加できる環境」とは？
・水平性・対等性がある。
・多元的・受容的である。
→ その環境を保障するために、（演習では）ファシリテーターの存在が重要。
・時間、内容、方法などの枠組みを設定：**構造化**
→ 一定水準の担保にもつながる。
・受講生の**「気づき」の可視化（言語化）**
・研修全体の統一性、科目毎の役割分担

③ 教育内容

○ 初任者研修標準シラバス

相談支援従事者養成研修　初任者研修・新カリキュラム（標準シラバス）

獲得目標	① ソーシャルワークとしての障害者相談支援の価値と知識を理解する。 ② 基本相談支援の理論と実際を理解し、障害者ケアマネジメントのスキルを獲得する。 ③ 計画相談支援の実施に関する実務を理解し、一連の業務ができる。 ④ 地域づくりとその核となる（自立支援）協議会の役割と機能を理解する。
研修の進め方 留意点	・以下のサイクルに則り展開し、講義と演習の連動を意識した研修を企画する。 事前学習→講義→演習(モデル演習)→課題(実習)→演習(実習課題に基づく) ・講義と演習を同一年度に一体的に受講することを前提として開発されたカリキュラムである。 ・講義は学識経験者等、演習は都道府県の中核となる実践者が担うことを前提として開発されたカリキュラムである。 ・講義において、内容の重複する箇所があるが、どの講義で重点的に取り扱うかを企画者が十分検討する。 （同一の内容を複数の講義で重点的に取り扱うことは避ける。ただし、講義と演習の連動における重複はこの限りでない。） ・講義内容は本表に掲載した内容を取り扱うこととし、それ以外の内容は①「既習を前提とする基礎的内容」あるいは②「発展的学習内容」であることを明確にする。 （本研修で必ず習得すべき内容と前提となる既習事項、発展的事項を明示する）。 ・演習は(導入・まとめの)講義とワークを交互に実施するなど冗長にならないよう留意し、学びのポイントを明示する。 ・演習は、受講生が主体的に参加し、学ぶことのできる環境で実施する(原則として、グループワークを多用する。)。 ・演習時は、都道府県(各地域)における相談支援の中核となる現任研修修了者以上の実践者(主任相談支援専門員を想定)を演習講師とし、グループに1名配置する。 ・演習における標準的なグループ人数は6名とする。

カリキュラム

事前学習	基礎知識・関連知識	－	○障害者総合支援法及び障害福祉関連制度、各障害の特性について〈テキストによる事前学習〉 ○効果測定：学習後自己評価表を研修開始時に提出　※効果測定の方法や評価・判定方法については別途要検討

		区分	科目名	時間	項目	初任者研修で扱う学習事項	前提となる既習事項	発展的学習事項 (現任・主任・専門等)
共通講義	1日目	講義1	オリエンテーション 研修受講ガイダンス	1h	本研修の獲得目標 プログラム概要	・相談支援の目的についてもごく簡単に触れる。 ・人材育成体系の中での本研修の位置		
					人材育成、職業教育、成人学習理論	・継続的な学びの必要性 ・基礎的な成人学習理論 ・実地指導やスーパービジョンの必要性、職業教育		スーパービジョン ファシリテーション 事業(所)の運営管理
		講義2	相談支援概論	5h	① 相談支援の目的 (1.5h)	・障害者の地域生活とその支援 ・障害者の自立と尊厳の確保、社会参加 ・自己決定(意思決定)への支援・権利擁護、エンパワメント、リカバリー ・障害のある人を含めた誰もが暮らすことのできる地域づくり	ノーマライゼーション ソーシャルインクルージョン 障害者の生活とその支援の歴史 条約や各種法令の目的・理念 障害者権利条約 障害者基本法 障害者差別解消法 障害者総合支援法	
					② 相談支援の基本的視点 (2.5h)	・基本的視点 ① 個別性の重視、② 生活者視点、QOLの重視、③ 本人主体、本人中心 ④ 自己決定(意思決定)への支援、⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目、 ⑥ 権利擁護 ※以下の項目については特に重点的に触れる。 ・医学モデルから社会モデル、生活モデルへ ・生活者視点と利用者の共感的理解 ・意思決定支援(意思決定支援ガイドライン) ・意思決定支援とは ・意思決定支援の原則・基本的視点 ・本人の意思と選好を基とする意思決定とその支援 ・最善の利益原則と代理代行決定 ・ストレングス視点と本人のストレングスを活かした支援	バイスティックの7原則 ソーシャルワーカーの倫理綱領 ICFの視点	意思表明や意思形成が非常に困難な障害者の意思決定支援
					③ 相談援助技術 (1h)	・地域を基盤としたソーシャルワーク(としての相談支援) ・ソーシャルワークにおけるミクロ、メゾ、マクロの視点	ケースワーク(個別援助技術) グループワーク(集団援助技術) コミュニティワーク(地域援助技術) 相談面接技術、カウンセリング	
	2日目	講義3	障害者総合支援法及び児童福祉法の理念・現状とサービス提供プロセス	1.5h	日本の障害福祉の歴史	・障害福祉制度の変遷		
					障害者総合支援法等による障害児者の自立と共生社会の理念			
					障害福祉サービス及び児童福祉サービスの制度	・自立支援給付、地域生活支援事業、自立支援医療、補装具、利用者負担、障害福祉計画、不服申し立て、障害児通所支援、障害児入所支援、介護保険との関係等について ・法にもとづく相談支援事業 ・障害福祉サービス（障害児支援)の提供プロセス ・障害者の権利を護るための法律及び関連制度の関係性および概要 ※障害者の権利に関する条約、障害者差別解消法、障害者虐待防止法、成年後見制度や日常生活自立支援事業等		
		講義4	障害者総合支援法及び児童福祉法のにおける相談支援（サービス提供）の基本	1.5h		・相談支援事業の成り立ち、相談支援の体系 ・各指定相談支援事業の基準に基づく相談支援専門員としての責務及び業務 ・指定障害福祉サービス事業等の基準に基づくサービス管理責任者等としての責務及び業務 ・相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携のあり方とその重要性 ・基本相談支援を基盤とした計画相談支援のプロセス ・サービス等利用計画・障害児支援利用計画と個別支援計画の関係 ・「障害者虐待防止の手引き」等を活用した虐待防止		
		講義5	相談支援におけるケアマネジメント手法とそのプロセス	1.5h	ケアマネジメントとそのプロセス	・ケアマネジメントの歴史と目的 ・ケアマネジメントのプロセスとその留意点 ・社会資源の捉え方とアクセス方法、資源開発		
					基本的視点	・相談支援の基本的視点（再掲：講義2を復習的に簡単に触れる。）		
					多職種連携とチーム支援	・多職種連携とその重要性 ・チームアプローチの留意点 （発展的学習事項についても、初任者研修でも簡単に触れる）		・相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携 ・個別支援計画等とサービス等利用計画等の連動
		講義6	相談支援における地域への視点	1.5h	地域における相談支援体制	・各指定相談支援事業、地域生活支援事業による相談支援事業（市町村相談支援事業、基幹相談支援センター）の各役割と機能、相互の連携並びに重層的な体制 ・地域における協議会の役割		・相談支援体制の整備
					地域づくり、資源の改善・開発、協議会の運営・活用	・地域資源の把握		・地域診断、地域課題の抽出・共有 ・ネットワーク構築（メゾネットワークの充実） ・官民の協働と協議会
		講義7	研修のまとめ	0.5h	研修のまとめ	・地域を基盤としたソーシャルワーク ・２日間のまとめと演習にむけて		

		区分	科目名	時間	項目	内容		
演習	1日目	演習1	演習 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術 (ケアマネジメントおよびサービス等利用計画作成に関するプロセス体験演習)	12h	インテーク・アセスメント (6h)	〈本人中心の支援、関係性の構築、本人の「人となり」の理解〉 1) ロールプレイやモデル事例を基にした模擬面接等によるインテークと関係性構築 2) 情報の収集と整理 3) 本人像の把握とニーズの整理 ※グループ討議にストレングスやエンパワメント、権利擁護や意思決定支援の視点を盛り込むよう配慮。		
	2日目				ゴール設定とプランニング (3h)	・アセスメントにより明確化したニーズへの支援・地域資源へのアクセスと活用の検討 ・サービス等利用計画の作成。 ・模擬サービス担当者会議等によるサービス管理責任者を中心とした他機関等との連携体験		
					モニタリング・ ターミネーション (2h)	・支援への評価、利用者満足度、新たなニーズの出現、ゴールの変化、他機関連携の状況確認 ・支援の終結 ・再アセスメント、再プランニング		
					振り返り 実習ガイダンス (1h)	・演習１の振り返り ・インターバル中の課題実施及び提出に関してのガイダンス		
		実習1	インターバル① 実習1(事前課題)実施のため、 研修に一定期間の間隔を設定。	目安 1ヶ月	課題① 相談支援プロセスの実践①	・自らの関わる障害当事者の中へインテークからアセスメントを実施する（再確認を含む）。 ・都道府県もしくは指定研修機関が指定する書式等を作成し提出。 ※今後従事予定で選定困難な場合、基幹相談支援センター等の紹介により、既存の相談支援事業所等の指導・監督のもと実習することも可とする。		
					課題② 地域資源に関する情報収集	・研修修了後に就業予定の相談支援事業所等が所在する地域（市町村・障害保健福祉圏域等）において、地域資源に関する情報を収集（公的機関、障害福祉サービス提供事業所、（自立支援）協議会など）。 ・都道府県もしくは指定研修機関が指定する地域資源整理票を作成し提出。 ※同一地域に複数の受講生がいることが想定されるため、地域づくりや研修効率化のためにも、基幹相談支援センター等が中心となり、協議会等で実習時の対応を検討することが必要になると想定される。		
	3日目	演習2-1	実践研究１ ＜実習課題に基づく アセスメントの検討＞	6h	アセスメント結果の検討 (スーパービジョン・事例検討の体験)	・事前課題で作成した事例情報、アセスメント結果、支援方針について、グループ毎に検討を実施 ・手法：構造化されたグループスーパービジョン・事例検討を想定。 ・導入講義45分、グループ演習270分、演習ふりかえり45分 ※1名あたり45分。 （報告 5分 → 本人像の共有 5分 → 質問 10分 → ブレインストーミング 15分 → 応答3分 → 休憩・転換：7分） ※休憩は数人毎にまとめてとること。		
		実習2	インターバル② 実習2実施のため、 研修に一定期間の間隔を設定。	目安 1ヶ月	課題③ 相談支援プロセスの実践②	・演習2-1での他者の助言・自らの気づきをもとに、再度アセスメントを実施するとともに、サービス等利用計画(案)の作成を行う。		
	4日目	演習2-2	実践研究２ ＜実習課題に基づく再アセスメントおよび支援方針(計画案)の報告と共有＞	3h	再アセスメント結果および支援方針(計画案)の報告・共有 (ケースレビューの体験)	・実習②で実施した再アセスメントおよび作成したサービス等利用計画(案)について、グループに報告・共有。 ※1名あたり25分を想定。 （報告：5分 → 質問：5分 → ブレインストーミング：10分 → 応答：3分、休憩・転換 2分） ※休憩は全員分をまとめて10分挟む。		
		演習3-1	実践研究３ ＜ケアマネジメントプロセスの定着演習＞	3h	ケアマネジメントプロセスの定着演習(前半) アセスメント	・演習2-2で共有された実践例より1つを選定。 ・グループによる再検討(ニーズ整理)により、アセスメントを深める。		
	5日目	演習3-2	実践研究４ ＜ケアマネジメントプロセスの定着演習＞	4h	ケアマネジメントプロセスの定着演習(後半) プランニング	・演習3-1で明確になったニーズへの支援の検討、プランの作成。 ・事例提出者者の地域を想定して具体的な地域資源を入れた支援計画を検討・作成 1) 自由な資源のアイディア出し(60分) 2) サービス等利用計画作成(60分) 3) ふりかえりと地域づくり・協議会(60分)		
		演習4	振り返り	2h	演習および研修全体の振り返り	・導入講義 ・個人での気づきの整理 ・グループおよび全体での討議および共有 ・まとめ講義		

[2-2]-[2-4] 演習１ 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

（ケアマネジメント手法を用いた相談支援プロセスの具体的理解）

【獲得目標】

事例を通し、ケアマネジメント手法を用いた個別相談支援、サービス等利用計画作成実務を具体的に理解する。

【ねらい】

① ケアマネジメントプロセスおよびサービス等利用計画の立案プロセスを体験する。

② 講義で学習した知識や価値・倫理の相談支援の実践場面における活用を学び、その定着を図る。

【小単元】	関係性構築とインテークアセスメント	(2-2)	
	アセスメント	(2-2)	
	プランニング	〈2-3〉	
	サービス担当者会議の開催と運営	(2-3)	
	モニタリング	(2-4)	
	演習１のリフレクション	(2-4)	計　１２時間

○ 原則として立ち戻る価値・倫理、視点（説明は講義にて）

おさえるべきポイントを「〇箇条」と明示した。

【相談支援の目的】

① 障害のある人のその人らしい地域生活支援

② 障害のある人の自立と尊厳の確保、社会参加の保障

③ 誰もが暮らすことのできる地域づくり

【基本的視点】　*各小単元において、確認する視点をまとめ、繰り返し提示することになります。*

① 個別性の重視

② 生活者視点、ＱＯＬの重視

③ 本人主体、本人中心

④ 自己決定〈意思決定〉への支援

⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目

⑥ 権利擁護

⑦ 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発

⑧ チームアプローチ、多職種連携

§１　関係性構築とインテークアセスメント（初期相談）

【ねらい】
① 個別の相談支援の基盤となる利用者と支援者の良好な関係性の構築とその要素について理解する。
② その前提となる生活者視点に基づく共感的理解について体験的に理解する。
③ 初期相談の具体的な流れと留意点を体験的に理解する。

原則として立ち戻る価値・倫理、視点との関係も説明する。

１．関係性構築　*共通講義の復習*

① エンゲージメント（強い信頼関係）の重要性、ラポールの形成
② 共感的理解、生活の視点による本人理解
③ 面接技術
　目的の確認・整理と共有・焦点化
　傾聴
　場面構築（場所・空間）
　コミュニケーション手段（非言語を含む）
　エンパワメント

２．ゴール設定

・本人にとってのゴールを設定し、共有する（できる限り本人の言葉で書かれる。）。
・本人が理解し、受け入れている（その実現に情熱を持てる）。
・留意点　・本人の設定したゴールを否定しない。
　　・非現実的であったり、達成に時間のかかるゴールであったときの関わる技法。

３．記録　*共通講義の復習*

４．初期相談の留意点　*共通講義の復習*

① 主訴の把握
② 相談の経緯、支援経路、課題感の主体
③ スクリーニング
　受理判断
　緊急性の判断
　手法の選択（ケアマネジメントの対象者かなど）
④ 事業説明、対等性と利用契約
⑤ 個人情報保護（守秘義務とプライバシー尊重）
⑥ 初期段階における関係性構築
※面接の内容的側面については、§２アセスメントを参照。

本演習の実施にあたり、指導者向けインストラクションが必要なため、本資料では掲載しません。

（進行表も本セクションは省略）

【ワーク１】共感的理解　　*２人～６人組でのワーク*

【ワーク２】関係性構築　　*２人～６人組でのワーク*

【ワーク３】ゴール設定

【ワーク４】相談面接模擬演習

○ ペアワークもしくはトリオワーク： 相談者、支援者（、観察者）

○ 相談内容を指定し、模擬面接を行う。

○ 全員がすべての役割を交代で体験する。

○ １クール終了毎に振り返りを行う（チェックシートを活用する）。

※このほか、当事者を実際に招いての初期相談場面の演習も想定される。

§２　アセスメント　*ここからはひとつの事例（モデル事例）を通じて体感します。*

【ねらい】
① アセスメントの意味と重要性を理解し、その実際を理解する。
② その前提となる生活者視点に基づく共感的理解について体験的に理解する。
③ 初期相談の具体的な流れと留意点を体験的に理解する。

原則として立ち戻る価値・倫理、視点との関係も説明する。

１．アセスメントとは　*共通講義の復習*

・本人の夢・希望の実現や課題の解決に向け、必要な根拠をおさえ、整理する。
　・本人像（人となり）
　・本人の夢・希望、解決したい課題。
　・それに向けて必要な状況把握（本人や環境に関する多角的・総合的な情報）
・ケアマネジメントプロセスの一部としてのアセスメントと継続的に深化するアセスメントについて留意する。

２．アセスメントの留意点　*共通講義の復習*

・情報の収集
　・面接技術（場面構成）と大きく関係する。
　・生活者視点、本人中心、ストレングスなどの基本的視点を意識し、表出された言葉や選好の意味や背景を探る問いを多様に用意する。
　　・障害・疾患、周囲の課題感に囚われすぎない。
　　・最善の利益、社会常識・規律に囚われすぎない。
　　※（支援者の）価値観の転換を図るリフレーミング
　・手段：　面接（言語・非言語）、経験の共有（見学、同行、体験等）、周囲からの情報収集

・ニーズ整理
　・本人の意思表明、客観的状況、支援者や周囲の判断・見立てを分けて考える。
　　（基本は本人の言葉や選好からはじまる。）
　・ストレングスに着目する。
　　・本人のストレングスは可能性を含む。
　　・特に、過去の経験はリフレーミングしながら肯定的に捉える。
　　・環境のストレングスにも目を向ける。
　・合議等による多角的な視点での検討の重要性

【ワーク１】ストレングスに着目したアセスメント（ストレングスを数多く挙げてみる。）

※ストレングス視点に留意し、雰囲気をよくするためのストレッチワーク。

最初に大づかみに捉えた本人像（端的に）

ストレングスと捉えたことをできるだけ数多く挙げます。

性格・人柄／個人的特性	才能・素質
環境のストレングス	**興味・関心／向上心**

※４つのマスのどこに入れる（分類する）かは、さほど重要な問題ではない。

【ワーク２】多角的な検討を行う。

【ワーク３】本人の人となりとニーズを簡潔に要約する（１００字程度）。

インテーク		アセスメント				プランニング
情報の整理 （見たこと、聴いたこと、データなど： 事実）			理解・解釈・仮説 （作成者のとらえたかた、解釈・推測）	理解・解釈・仮説② （専門的アセスメントや他者の解釈・推測）	支援課題 （支援が必要と作成者が思うこと）	対応・方針 （作成者がやろうと思うこと）
本人の表明している 希望・解決したい課題	（作成者の）おさえておきたい情報	本人				
		環境				

今回大づかみに捉えた本人像（100文字程度で要約する）

§３　プランニング　*ひとつの事例（モデル事例）を通じて体感します。*

【ねらい】
① プランニングの主体もまた他のプロセス同様本人であり、ストレングスの活用が焦点となることを理解する。
② プランニングの際、フォーマルサービスのみならず地域の様々な資源を意識する必要性を理解する。
③ 障害福祉サービスの利用に際して必要となるサービス等利用計画の作成の実際を理解する。

原則として立ち戻る価値・倫理、視点との関係も説明する。

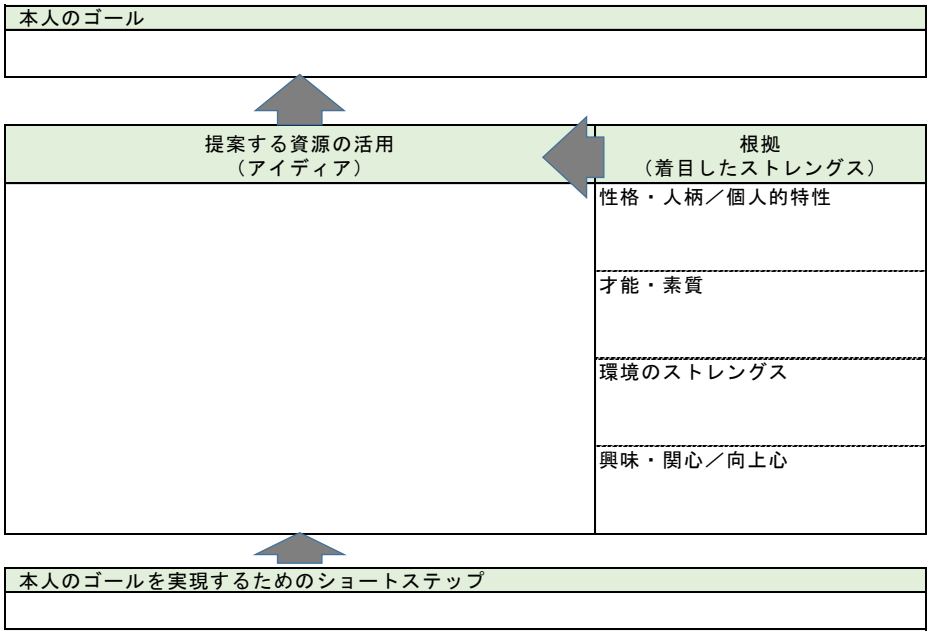
１．手だてを考える（プランニングする）際の視点　地域のあらゆるものを資源と捉える

① 前提となるゴール設定（意思決定）は本人が行うものである。
② 手だてを選択する際は根拠は必要であり、その最大の焦点はストレングスの活用である。
③ 地域のあらゆるものを資源と捉える。
・柔軟にフォーマルサービスに限らず考える。
・地域の様々な資源にアクセスできるようにする。
④ 資源開発：　地域（の住民）に共通する課題の解決策を編み出す。

２．障害福祉サービスを利用する際には　*共通講義の復習*

① 障害福祉サービスを利用する際には、サービス等利用計画が必要となる。
→ 障害者支援法・児童福祉法の支給決定プロセスに基づく業務
② サービス等利用計画にも§1、2や§3-1の視点は当然重要な前提条件である。

【ワーク１】多様な地域の資源を提案してみよう。（根拠を持ち、数多く挙げる）



【ワーク２】サービス等利用計画案作成

§４ サービス担当者会議の運営　*ひとつの事例（モデル事例）を通じて体感します。*

【ねらい】
① チーム支援の必要性を理解する。
② 情報と目的の共有と役割分担におけるサービス担当者会議（ケア会議）の重要性を理解する。
③ サービス担当者会議運営の基本を理解する。

原則として立ち戻る価値・倫理、視点との関係も説明する。

１．サービス担当者会議の意味と役割　*共通講義の復習*

① 本人および関係者の情報と目的の共有（本人の想いを含む）
② 具体的な方法・内容と役割分担の共有
③ サービスのプロセス管理（モニタリング）機能

２．サービス担当者会議の留意点　*共通講義の復習*

① 本人中心
② チームアプローチ
③ 開催目的の明確化
④ 事前準備

【ワーク１】サービス担当者会議のロールプレイ

① 役割設定と事前協議
・本人　・家族　・相談支援専門員　・Ａ事業所サービス管理責任者
・Ｂ事業所サービス提供責任者　・その他ひとり
② サービス担当者会議
〇 自己紹介
① 本人の想いの共有
① 本人および関係者の情報と目的の共有
② プランの内容の共有
③ 次回の開催日程

§５ モニタリング（・評価・終結）　*ひとつの事例（モデル事例）を通じて体感します。*

【ねらい】
① モニタリングの目的と視点、方法を理解する。
② モニタリングにおけるサービス担当者会議（ケア会議）の重要性を理解する。

原則として立ち戻る価値・倫理、視点との関係も説明する。

１．モニタリングのチェックポイント　*共通講義の復習*

① 状況確認・進行管理
・前回からの変化（本人、環境）
・ゴールが達成されているか。ゴールに向かって進んでいるか。
・本人の満足度はどうか。
・本人の想いやゴール設定に変化はあるか。
・アセスメントを大きく整理しなおしたり、計画を追加・修正等変更する必要はあるか。
・サービス等利用計画のモニタリング頻度は適切か。
② 再アセスメント
③ プラン修正・変更、終結

【ワーク１】本人との面接ロールプレイ

【ワーク２】モニタリングにおけるサービス担当者会議

○ 自己紹介
① 本人の感想・意見
② その他関係者の状況報告
③ 今後にむけての意見交換、プランの検討
④ 決めた内容の確認と役割分担
⑤ 次回の開催日程

§６ 実習ガイダンス

課題

1 実践例を１例選定し、アセスメントまで実施する。

2 自らの業務地域の状況を知るための地域の調査を行う。

方法・留意事項

課題１

（１）実践例の選定方法（以下の全てに該当する利用者を選定すること）

① 実際に自分自身が現在進行形で関わっている利用者であること。

② ケアマネジメント技法を用いた支援に適する利用者であること。

○ 地域生活（在宅生活）、入所・入院からの地域移行に関する支援の対象者であること。

○ 地域の複数の社会資源を活用している（したい）利用者であること。

○ ひとつ以上の障害福祉サービスを利用している（したい）利用者であること。

③ 自らが何らかの課題意識でアセスメントを（再）検討してみたい、アセスメントについて他者の意見を聞いてみたい利用者であること。

¶以下に挙げる利用者を選定することは避けること（実践例再選定の上再提出となります）。

・緊急性の高い事例、危機介入の必要な利用者。

・本研修の期間中に関係性の構築が困難な利用者。

・本研修の期間中に会うことが困難な利用者。

・現在のところ本人のゴールがない、本研修の期間中に定まりがたいと想定される利用者。

★実際の支援の中では上記のような利用者も当然おられるはずですが、今回は初任者研修の獲得目標・研修意図から、避けていただくものです。

（２）課題

○ 本人と関わり、アセスメントを行う。

○ 提出するものは以下の点。

① 事例の概要

② ストレングスの整理票

③ １次アセスメント票

④ ニーズ整理票

○ 次回の研修においてアセスメントの検討を行います。

それに向け、１０分間で以下の要領で概要を発表できるよう、準備しておくこと。

① 本人像の要約（状況を簡潔に）

② 本人との関わり（経緯）

③ 本人の（と）定めたゴール

④ 本人のゴール達成に向けての課題・スモールステップ

⑤ 本人のストレングス

⑥ 実践例の選定理由（自らの課題意識）

[2-5] 演習２－１ 課題研究（実習課題に基づくアセスメントの検討 －「事例検討」の体験）

【獲得目標】

① ケアマネジメントプロセスのうちインテークおよびアセスメントについておよび、関係性の構築について理解し、基礎的実践ができる。

② 構造化されたグループスーパービジョンの手法を用いたグループ討議を行い、「事例検討」やスーパービジョンの実際を理解できる。

【ねらい】

① 自らとグループメンバーの実習課題についてグループ討議することで、自己点検を行うとともに、新たな視点・気づきを持つなど、関係性構築やインテーク、アセスメントについて実地での理解を深め、実務の基礎を身につける。

② 構造化されたグループスーパービジョンの手法による「事例検討」を体験し、スーパービジョンを受ける必要性を体感するとともに、その具体的な手法について理解する。

【小単元】 導入講義
演習
演習のリフレクション　　計　６時間

※演習１日目・２日目の振り返り、課題の実習について。

１．本講義でのグループ討議の目的

支持的環境の中で、複数の視点により、業務（自らの支援）を振り返る。

→ 気づきや新たな視点・資源等の知識の獲得、合議による支援方針の決定

→ 支援の質の向上

→ 利用者（障害のある人）の夢・希望の実現、生活の質の向上

※要はスーパービジョン（支持・管理・教育）。共通講義「人材育成」の項参照。

※スーパービジョンの種類や方法についても共通講義を復習する。

２．構造化されたグループスーパービジョン

１）構造化されたグループスーパービジョンとは

・討議のプロセス自体が時間で区切られ、それぞれのプロセスの役割が明確化されている。

・討議に参加する者の役割が明示され、プロセス毎にその方法が規定されている。

２）構造化の意図

・参加者にとって目的や方法がわかりやすく、よい討議が実現しやすい。

・水平な関係によるスーパービジョンが展開しやすい。

・（求めるゴールに向けて）焦点化された議論がしやすい。

3）グループスーパービジョンの利点　*※繰り返しです*

・想像的な代替策のアイディアの源泉
・利用者行動の内面的な理解（内的解釈）
・同僚への励ましと指示（チームとしての共感性）
・成功した実践への分かち合い
・クライエント（利用者）との直接的な関わりのない同僚の視点から開かれること
・チーム全体がクライエント（利用者）をよく知るため、担当者の幅が広がる
・チームとしての学習効果が高まる（個別ケースのアイディアから他のケースへの応用）

３．討議の基本的視点　*※繰り返しです*

【相談支援の目的】

① 障害のある人のその人らしい地域生活支援 → **「その人らしさ」をどう捉えているか。**
② 障害のある人の自立と尊厳の確保、社会参加の保障
③ 誰もが暮らすことのできる地域づくり

【基本的視点】

① 個別性の重視
② 生活者視点、ＱＯＬの重視
③ 本人主体、本人中心
④ 自己決定〈意思決定〉への支援
⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
⑥ 権利擁護　　*※⑦⑧は次回焦点化する内容*

【プロセス毎のチェックポイント】

① 関係性の構築
・エンゲージメント（強い信頼関係）ができているか。
・共感的理解、生活の視点による本人理解ができているか。
・本人にとって良い環境や方法で面接等ができているか。

② インテーク・アセスメント
・支援方法の選択は適切か（ケアマネジメントの対象者か）、緊急性の判断は妥当か。
・本人の思いは聞けているか、主訴や課題感は本人のものか。
・本人の意思・目標は明確になっているか、ゴールに向けて焦点化されているか。
・上記の実現にむけて必要な情報がとれているか、様々な情報源からの情報をとっているか。
・上記にむけて必要な本人の能力や経験などが把握されているか。
・本人の意思決定に困難がある場合、そこへの支援が行われているか。
・本人の障害や疾病、問題・課題ではなく、ストレングスに着目できているか。
・本人をストレングス視点で捉えられているか。

４．具体的な進行法

ステップ		スーパーバイジー 事例報告者	スーパーバイザー（事例提供者以外の参加者全員） グループメンバー
		全体を通して、よい雰囲気づくりにつとめる。	
1	準備 配布	・作成した課題をグループ人数分用意（個人情報の書きかたに配慮）。	
2	報告セッション 読み込みの時間を含む （ 10 分）	・実践例の要点や解釈(見立て)・判断の理由を**端的に**説明する（「簡素なスケッチ」）。 ・**本人のゴールと自分の提出意図を**グループに伝える（より具体的であるほうが望ましい。複数も可）。	・報告の間は**発言しない**（黙って聴く）。
3	質問セッション 本人像の共有 5分 質問 10分	・グループメンバーからの質問に**端的にテンポよく**答える(原則一問一答)。 ・質問された内容以上の回答や説明は控える。	・実践例の要点、判断理由などの不明点等について、**簡潔に**質問する(原則一問一答)。 ・提出意図や求められている助言に**焦点をあてて（意図・根拠をもって）質問**。 ・これまでの講義や演習１で提示された着眼点に沿って質問する。 ・本人と環境のストレングス双方に着目する。
4	ブレインストーミング 〈バズセッション〉 （ 15 分）	・このセッションでは発言しない（**黙って聴き、出された本人像・アイディアを記録**する）。	・積極的に発言し、アイディアは徹底的に出しあう。 ・水平の立場で発言。他人の批判をしない（ただし、発言の根拠は求めてよい）。 ・自分の発言が少ないなと感じたら、思ったことは口にしてみるとよい。 ・より具体的・創造的な発言がよい。
5	応答 今後の取り組み （ 5 分）	・出された本人像やアイディア、解釈や意見に対し、応答する。 ・次回の課題に向け、（次いつ会うか・）どのような関わりをしてみようと思うか具体的に表明する。	他の人の良い着眼点やアイディアをさらに展開させたり、今まで提示されていない視点・ストレングスに転換してみることも効果的。
		気づきはありましたか？	

・ファシリテーターは演習講師がつとめる。

・設定： 自分なりのアセスメントを整理したが、迷いや疑問があり、事業所内あるいか地域の相談支援専門員の集まる場に提出し、他人の意見を求める。

・報告セッションでは、実践例の選定理由を述べるとともに、主に事例の概要を用いて５分程度で説明を行う。

５．グループ討議（事例検討）の基本的ルール

① 根拠を持って発言する。

② 端的に発言する。

③ 求められたゴール・課題に向けて発言する。

④ 否定的な発言をせず、受容的な雰囲気を醸成する。

⑤ 多様な意見が場に出るようにつとめる（自分ばかりが発言しないよう留意する)。

⑥ 時間を守る。

演習２－１　記録・振り返りシート

【１】ブレインストーミングで出された意見・アイディア	

【２】実践例を提出してみての自分の気づき、得られた新たな視点や知識

【３】インターバルで行う取り組み	【４】その結果

[2-6] 演習２－２ 課題研究

（再アセスメント及び支援方針（計画案）の報告と共有 －ケースレビューの体験）

【獲得目標】

① ケアマネジメントプロセスのうちアセスメントおよびプランニングについて理解し、基礎的実践ができる。

② サービス等利用計画の作成プロセスを理解し、その作成の基礎的実践ができる。

③ グループ討議によるケースレビューを行い、その実際を理解できる。

【ねらい】

① 自らとグループメンバーの実習課題についてグループ討議することで、自己点検を行うとともに、新たな視点・気づきを持つなどにより、ケアマネジメントプロセスにおけるアセスメントやプランニング、サービス等利用計画作成の業務について実地での理解を深め、実務の基礎を身につける。

② ケースレビューを体験し、その具体的な手法について理解する。

【小単元】 導入講義
演習　　計　４時間

※演習１日目・２日目の振り返り、課題の実習について。

１．～３．目的、基本的視点

※演習２－１と同

【プロセス毎のチェックポイント】

① 関係性の構築

・エンゲージメント（強い信頼関係）ができているか。
・共感的理解、生活の視点による本人理解ができているか。
・本人にとって良い環境や方法で面接等ができているか。

② インテーク・アセスメント

・支援方法の選択は適切か（ケアマネジメントの対象者か）、緊急性の判断は妥当か。
・本人の思いは聞けているか、主訴や課題感は本人のものか。
・本人の意思・目標は明確になっているか、ゴールに向けて焦点化されているか。
・上記の実現にむけて必要な情報がとれているか、様々な情報源からの情報をとっているか。
・上記にむけて必要な本人の能力や経験などが把握されているか。
・本人の意思決定に困難がある場合、そこへの支援が行われているか。
・本人の障害や疾病、問題・課題ではなく、ストレングスに着目できているか。
・本人をストレングス視点で捉えられているか。

③ プランニング

・本人が決定し、共有されているゴールに向けてのプランであるか。
（本人が前向きになれるプランであるか。）。

・その実現に必要な地域の社会資源が柔軟に捉えられているか。

・その実現に必要な人材がチームに参画しているか、役割分担がなされているか。

・本人にとってわかりやすい言葉で書かれているか。

・本人が前向きになれるプランか／前向きになれる言葉で書かれているか。

・達成できる可能性の高いプランであるか（スモールステップが刻まれているか）。

・時期にかなったプランになっているか。

・達成したかどうかがわかるプランになっているか。

※アセスメント結果を活かし、矛盾のないプランであるか。

※サービス等利用計画作成の視点は整理中。

４．具体的方法

ステップ		スーパーバイジー 事例報告者	スーパーバイザー（事例提供者以外の参加者全員） グループメンバー
		全体を通して、よい雰囲気づくりにつとめる。	
1	準備 配布	・作成した課題をグループ人数分用意（個人情報の書きかたに配慮）。	
2	報告セッション 読み込みの時間を含む （ 10 分）	・思い出すための本人像と提出意図等の概略、前回を受けて取り組んだこととその結果、プランの要点を**端的に**説明する。 ・相談支援の目的や基本的視点、プロセス毎の留意点等と自らの実践を対比し、支援に際して留意した点、困難を感じた点を端的に説明する。	・報告の間は**発言しない**（黙って聴く）。
3	質問 （ 10 分）	・グループメンバーからの質問に**端的にテンポよく**答える(原則一問一答)。 ・質問された内容以上の回答や説明は控える。	・実践例の要点、判断理由などの不明点等について、**簡潔に**質問する(原則一問一答)。 ・これまでの講義や演習で提示された着眼点に沿って質問する。 ・本人と環境のストレングス双方に着目する。
4	ブレインストーミング 〈バズセッション〉 （ 10 分）	・このセッションでは発言しない（**黙って聴き、出されたアイディアを記録**する）。	・積極的に発言し、意見は徹底的に出しあう。 ・水平の立場で発言。他人の批判をしない（ただし、発言の根拠は求めてよい）。 ・自分の発言が少ないなと感じたら、思ったことは口にしてみるとよい。 ・より具体的・創造的な発言がよい。
5	応答 今後の取り組み 講師コメント含む （ 5 分）	・改めて出された本人像やアイディア、解釈や意見に対し、応答する。 ・今回得られた気づきや新たな視点などを表明する。	他の人の良い着眼点やアイディアをさらに展開させたり、今まで提示されていない視点・ストレングスに転換してみることも効果的。
		気づきはありましたか？	

・ファシリテーターは演習講師がつとめる。

・報告セッションでは、再アセスメントの結果変化したところとその要因を前回との対比で簡潔に説明する（振り返りシートおよびアセスメントツールを用いる)。またプランについては、基本的視点と照らし合わせ留意したポイントや困難・疑問を感じた点、社会資源やチームメンバーの選定意図や留意した点を簡潔に説明する。

５．グループ討議（事例検討）の基本的ルール

演習 2-1 と同

[2-7] 演習３－１ 実践研究３（ケアマネジメント演習- 再アセスメント）

【獲得目標】

① ケアマネジメントプロセスのうちインテークおよびアセスメントについておよび、関係性の構築について理解し、基礎的実践ができる。

【ねらい】

① 受講生の実践例に基づき、ケアマネジメントプロセスのうちインテークおよびアセスメントについておよび、関係性の構築について理解の定着を図る。

【小単元】 導入講義・演習のリフレクション
演習　　計　２．５時間

１．本演習の手順

（１）討議する実践例の選定
・選定のポイント

（２）概要の再説明（５分）
・事例提供者は以下に基づき、要点の再説明を行う。
① 本人像の要約（状況を簡潔に）
② 本人との関わり（経緯）
③ 本人の（と）定めたゴール
④ 本人のゴール達成に向けての課題・スモールステップ
⑤ 本人のストレングス
⑥ 実践例の選定理由（自らの課題意識）

（３）実践例の再読み込み（１０分）

（４）本人像の共有ならびに論点の整理
① 各自の捉えた本人像の共有（５分）
② 本人の表出している希望、本人のめざすゴールの確認（１０分）
③ 支援のポイントと各自の考える点とその根拠の共有、討議（４０分）
※本人の希望・ゴールと現実のズレやその原因
④ 本人像のグループでのまとめ（２０分）
⑤ 本人のニーズ、解決したい課題のグループでのまとめ（２０分）
（・手立て（どのような支援が必要か）のグループでのまとめ）　　休憩１０分含む

（５）演習の振り返り（２０分）
・振り返り票*およびチェックシート*に基づき、自分たちの討議を振り返る。

２．討議の基本的視点　*※繰り返しです*

【相談支援の目的】

① 障害のある人のその人らしい地域生活支援 → **「その人らしさ」をどう捉えているか。**

② 障害のある人の自立と尊厳の確保、社会参加の保障

③ 誰もが暮らすことのできる地域づくり

【基本的視点】

① 個別性の重視

② 生活者視点、ＱＯＬの重視

③ 本人主体、本人中心

④ 自己決定〈意思決定〉への支援

⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目

⑥ 権利擁護

⑦ 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発

⑧ チームアプローチ、多職種連携

【プロセス毎のチェックポイント】

① 関係性の構築

・エンゲージメント（強い信頼関係）ができているか。

・共感的理解、生活の視点による本人理解ができているか。

・本人にとって良い環境や方法で面接等ができているか。

② インテーク・アセスメント

・支援方法の選択は適切か（ケアマネジメントの対象者か）、緊急性の判断は妥当か。

・本人の思いは聞けているか、主訴や課題感は本人のものか。

・本人の意思・目標は明確になっているか、ゴールに向けて焦点化されているか。

・上記の実現にむけて必要な情報がとれているか、様々な情報源からの情報をとっているか。

・上記にむけて必要な本人の能力や経験などが把握されているか。

・本人の意思決定に困難がある場合、そこへの支援が行われているか。

・本人の障害や疾病、問題・課題ではなく、ストレングスに着目できているか。

・本人をストレングス視点で捉えられているか。

[2-7] 演習３－２ 実践研究４（ケアマネジメント演習 － プランニング）

【獲得目標】

① ケアマネジメントプロセスのうちプランニングおよび計画相談におけるサービス等利用計画作成に関する業務ついて理解し、基礎的実践ができる。

② 社会資源を柔軟に捉えることができるようになるとともに、地域課題の抽出（個別から地域へ）など地域づくりの視点を持つことの重要性を理解できる。

【ねらい】

① 受講生の実践例に基づき、ケアマネジメントプロセスのうちプランニングおよびサービス等利用計画作成に関する実務について理解の定着を図る。

② 今後の課題として、インフォーマルを含めた社会資源の活用や地域づくりの重要性について意識づけを図る。

【小単元】 導入講義・リフレクション
演習　　計　３．５時間

１．本演習の手順

（１）演習３ - １のグループワークでの議論を再確認（１０分）

（２）自由な資源のアイディア出し（７０分）

① まずは自由に発想する。（１０分）

② 続いて根拠を持って（＝ニーズ整理の結果を踏まえ）アイディアを出す。（１５分）

③ 地域の中の活用できる資源はなにか、各自の課題の社会資源マップを見ながら検討する。

④ 地域課題と思われる事項について検討する。 *※演習講師からの提示になると想定される。*

→ 協議会等地域づくりに関する活動についても協議もしくは演習講師から補足する。（③④で４５分）

（３）サービス等利用計画作成（７０分）

・具体的な資源まで書き込む本計画を作成。 ※（案）はできていることとするか、そこも含むか。

・個人ワーク＋グループ討議

（４）演習の振り返り（３０分）

・振り返り票*およびチェックシート*に基づき、自分たちの討議を振り返る。

２．討議の基本的視点 *※繰り返しです*

【相談支援の目的】

① 障害のある人のその人らしい地域生活支援 → **「その人らしさ」をどう捉えているか。**

② 障害のある人の自立と尊厳の確保、社会参加の保障

③ 誰もが暮らすことのできる地域づくり

【基本的視点】

① 個別性の重視
② 生活者視点、ＱＯＬの重視
③ 本人主体、本人中心
④ 自己決定〈意思決定〉への支援
⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
⑥ 権利擁護
⑦ 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発
⑧ チームアプローチ、多職種連携

【プロセス毎のチェックポイント】

③ プランニング

・本人が決定し、共有されているゴールに向けてのプランであるか。
（本人が前向きになれるプランであるか。）。
・その実現に必要な地域の社会資源が柔軟に捉えられているか。
・その実現に必要な人材がチームに参画しているか、役割分担がなされているか。
・本人にとってわかりやすい言葉で書かれているか。
・本人が前向きになれるプランか／前向きになれる言葉で書かれているか。
・達成できる可能性の高いプランであるか（スモールステップが刻まれているか）。
・時期にかなったプランになっているか。
・達成したかどうかがわかるプランになっているか。
※アセスメント結果を活かし、矛盾のないプランであるか。

【地域への視点】

・実践例のクライエント本人だけでなく、複数の利用者に共通する課題はないか。
・その課題の背景（理由）はなにか。
・どのような資源が地域にあると、その課題は解決するか。
・その資源を生み出したり、アクセスできるようにするためにはどのようにしたらよいか。
・地域で課題を共有し、解決するためにはどのようにしたらよいか。

３．サービス等利用計画作成の実務と基本的視点　*※１－（３）で再度触れる*

（次ページ以降 H23 推進事業『サービス等利用計画作成サポートブック』より抜粋）

[2-8] 演習４　研修のふりかえり

【獲得目標】

① 初任者研修全体を振り返り、今回自らが獲得したことの確認と今後に向けての指針をもつことができる。

【ねらい】

① 初任者研修全体を振り返り、本研修の目的や獲得目標、内容を再度確認することで、その定着を図る。

② 受講生自身の気づきの確認や自らの現状を把握し、。

【小単元】　手順を参照

１．本演習の手順

（１）導入講義（２０分）

・相談支援における人材育成について、本研修の狙いと学んだ内容・ポイントを再確認する。

・演習に向けた導入を行う。

（２）個人での振り返り（２０分）

・振り返り票およびチェックシートに基づき振り返りを行う。

（３）グループでの振り返り（４５分）

・振り返りの共有（１５分）　２分×６名

（休憩１０分）

・討議（３５分）　※討議の視点は原則として演習講師が整理する。

（４）全体共有およびまとめ講義（５０分）

・全体共有（２０分）　２～３分×７～８Ｇ

・まとめ講義（３０分）

２．討議の基本的視点　*※繰り返しです*

【相談支援の目的】

① 障害のある人のその人らしい地域生活支援 → **「その人らしさ」をどう捉えているか。**

② 障害のある人の自立と尊厳の確保、社会参加の保障

③ 誰もが暮らすことのできる地域づくり

【基本的視点】

① 個別性の重視

② 生活者視点、ＱＯＬの重視

③ 本人主体、本人中心

④ 自己決定〈意思決定〉への支援

⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目

⑥ 権利擁護

⑦ 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発

⑧ チームアプローチ、多職種連携

【プロセス毎のチェックポイント】

① 関係性の構築

・エンゲージメント（強い信頼関係）ができているか。

・共感的理解、生活の視点による本人理解ができているか。

・本人にとって良い環境や方法で面接等ができているか。

② インテーク・アセスメント

・支援方法の選択は適切か（ケアマネジメントの対象者か)、緊急性の判断は妥当か。

・本人の思いは聞けているか、主訴や課題感は本人のものか。

・本人の意思・目標は明確になっているか、ゴールに向けて焦点化されているか。

・上記の実現にむけて必要な情報がとれているか、様々な情報源からの情報をとっているか。

・上記にむけて必要な本人の能力や経験などが把握されているか。

・本人の意思決定に困難がある場合、そこへの支援が行われているか。

・本人の障害や疾病、問題・課題ではなく、ストレングスに着目できているか。

・本人をストレングス視点で捉えられているか。

③ プランニング

・本人が決定し、共有されているゴールに向けてのプランであるか。
（本人が前向きになれるプランであるか。)。

・その実現に必要な地域の社会資源が柔軟に捉えられているか。

・その実現に必要な人材がチームに参画しているか、役割分担がなされているか。

・本人にとってわかりやすい言葉で書かれているか。

・本人が前向きになれるプランか／前向きになれる言葉で書かれているか。

・達成できる可能性の高いプランであるか（スモールステップが刻まれているか)。

・時期にかなったプランになっているか。

・達成したかどうかがわかるプランになっているか。

※アセスメント結果を活かし、矛盾のないプランであるか。

【地域への視点】

・実践例のクライエント本人だけでなく、複数の利用者に共通する課題はないか。

・その課題の背景（理由）はなにか。

・どのような資源が地域にあると、その課題は解決するか。
・その資源を生み出したり、アクセスできるようにするためにはどのようにしたらよいか。
・地域で課題を共有し、解決するためにはどのようにしたらよいか。